

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第49号

平成26年8月発行

●
発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)



(昭和50年代のがんセンター)

愛知県がんセンター開設50周年記念行事

*平成26年 9月 6日(土) 〈公開講座〉開設50周年記念特別企画

※一般参加(申込み不要・無料)

*平成26年10月 4日(土) 〈開設50周年記念式典〉

※一般参加は予定しておりませんが、次号のがんセンターNews等で取り上げて参ります。

*平成27年 3月14日(土) 〈国際シンポジウム〉

※詳しくは下記サイトにアクセスしてご覧下さい。

愛知県がんセンター開設50周年記念サイト http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/50th_anniv/index.html

50周年特別企画 ～がんセンター今昔～

第5回

愛知県がんセンターは今年、開設50周年を迎えました。この節目にあたり、センターOBの先生方に在職当時のエピソードとセンターのこれからの未来について語っていただきます。第5回は青木國雄名誉総長です。

私は、1969年から約7年、研究疫学部長として、暖かい雰囲気の中で研究、勉学をさせていただき、赤崎兼義所長、瀬木三雄顧問の国際研究のお手伝いもでき、幸せな日々を過ごした。1989年、名古屋大学医学部長退任時に、がんセンター総長にとの打診があった。大学紛争が一段落し、地方の病院・施設にその影響が及んでいる時期であり、難しい管理職は早く離れたいと思っていた時であった。結局、ご恩返しと定年前に辞職し、お引き受けした。

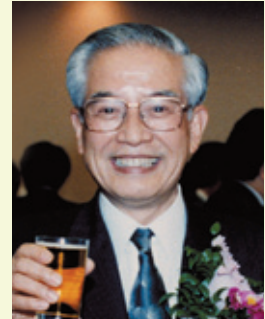
赴任早々、新病院建築計画をみて、将来を考えると、米国のようにベッドを持つ外来診療棟が必要と考えたが、当時の判断では実現することは難しかった。それが昨年、がんセンターに新設され、今昔の感に堪えない。また、当時、病院の運営は心配しなくてもよいとのことではあった。実際に管理・運営に携わると、大学とは異なった問題も多く、やはり時代の影響も大きかった。組織全体を理解して行動するには、時間がないのは悩みで、医局のタバコの煙対策に自費で空気清浄器を取り付けたり、患者さんのアメニティ向上に関する委員会を立ち上げたりした。また、各部職員との交流を図るなど、心身で覚えようとした。

唐沢院長赴任後は、全てをお任せしたが、先生は各医局を重んじられ、患者接遇対策についても積極的ではないかの様に思われた。しかし、時間の経過と共に事態は徐々に改善し、院長の力量と感心した。

がんセンター「時報」の年頭の挨拶には、4年間、殆ど病院への要望が書かれており、危機意識が強かったことを物語っている。患者重視の方針はなかなか末端まで届かず、気をもんでいたからである。

研究所については、玄関の床に大きな亀裂があり、修理で対応する計画と聞かされていた。専門家に聞くと、大地震ではかなりの被害が出るという、新築が必要との回答で、その予算は修理の倍近かった。将来を考えると、大問題であり、ある時、当時の鈴木知事に、私的に相談申し上げたところ「人の被害も問題ですな」といわれ、新病棟竣工時の挨拶で、研究所の新建設も言明された。有り難いことであったが、当時の運用部においては、勝手な交渉と無言の非難があり、私を最も支えてくださった運用部長は頭を抱えられた。以降、この件について異を唱える向きもあったが、振り返れば正解であり、知事の決断は偉大だったと思う。

任期をとおしてみると、大部分の業務は常識的にこなしており、多くの職員の協力を戴いたことは幸いであった。



愛知県がんセンター名誉総長

青木 國雄

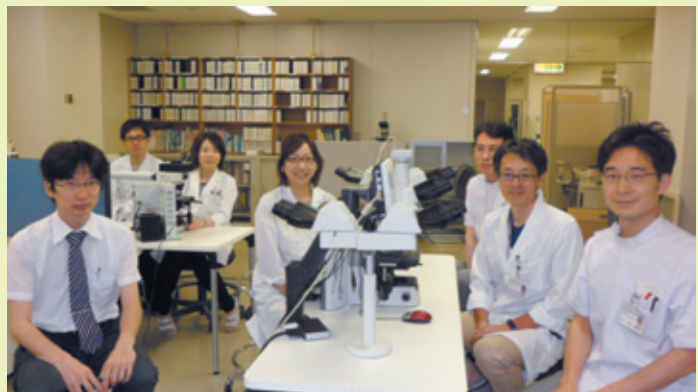
専門分野 疫学、予防医学
 日本結核病学会今村賞
 日本癌学会会長賞
 日本疫学会功労賞
 中富健康科学振興賞
 中日文化賞
 保健文化賞
 東海テレビ文化賞
 UICC(国際対癌連合)表彰
 瑞宝中綬賞



診療医の紹介

中央病院 ～遺伝子病理診断部～

遺伝子病理診断部は、外来・入院部門を持たない特殊な診療科です。そのため、患者さんとは直接接する機会はありませんが、診断に関わる重要な三つの診断業務（病理組織診断、細胞診、遺伝子診断）を行っています。がんセンターの特徴もあり、腫瘍の診断ではさまざまな技術を応用しています。特に、分子生物学的解析を積極的に取り入れ、個別化治療（それぞれの遺伝子変異に対する最適な分子標的治療薬の選択）に役立てられています。また、腫瘍によっては、遺伝子変異によって確定できるタイプもあり、遺伝子解析は通常検査に組み入れられて日常的に行われています。



左より、佐々木医長、伊藤医師、近藤医師、村上医長、橋本医長、谷田部部長、細田医長

センター探訪 ⑤

放射線治療品質管理室

愛知県がんセンターを支える日頃目立ちにくい部署、縁の下の力持ちを紹介します。第5回は放射線治療品質管理室です。

放射線治療品質管理室とは、放射線治療の品質管理に関する情報を分析し、必要に応じて現場へ提案・助言を行う組織です。放射線治療が高精度化している現状で高品質な放射線治療を安全に提供するために、今年度から放射線治療部に新設されました。

品質管理室の業務を具体的に示すと、①放射線治療計画の作成補助と評価、②放射線治療関連装置の精度管理に関する解析、③臨床試験の提出資料の作成と会議への参加、④放射線治療に携わる職員の教育・研修、⑤放射線治療の業務改善、⑥放射線治療の安全性と品質の向上に関する各種の重要事項を審議する放射線治療品質管理委員会の企画・開催など多岐に渡ります。我々は、これらの業務を安全最優先の意識に基づいて実施し、事故を未然に防ぐことに貢献しています。

今年度から品質管理室が設置されましたが、現状では、医学物理士資格^{*1}を持った診療放射線技師が照射業務と兼務しています。両者（医学物理士と診療放射線技師）の兼務が過重労働である実情があるため、リスクの軽減の観点から更なる安全な放射線治療を提供するために「医学物理士」としての雇用形態を院内に確立することを目指します。

*1 医学物理士認定試験に合格し、かつ認定申請資格を満たす者が医学物理士認定機構に申請することで得る資格。

放射線治療品質管理室の活動例



放射線治療品質管理室の構成メンバー。室長（中央）と実務をサポートする医学物理士（左右）。

第三者機関による放射線治療装置の出力評価（安全性の確保）。

放射線治療品質管理委員会の様子。委員は放射線治療部スタッフと事務局スタッフ。



1.がんを退治するために放射線を60 Gy(グレイ)照射するとします。



2.でも、肝心の機械の管理が不十分では、正しい治療はできません。

「放射線治療に関する装置の品質管理においてエキスパートである我々が、機械の特性を把握し、基準値を超えるスレがある場合、機械の不具合を調整してもらうことで患者さんに安全な放射線治療をご提供します」



放射線治療品質管理室

3.機械の特性把握も当院の品質管理室の仕事です。

平成26年度 愛知県がんセンター公開講座

最新のがん情報をわかりやすくお伝えしています。

回	開催日時	申込	テーマ (講師)
1	平成26年5月31日(土) 愛知芸術文化センター	14:00 ～16:00 (開場 13:30) 終了 了不要	講演「がん患者及びその家族への支援」 ①相談支援センターのご案内～がんに関する不安や悩みごとの相談窓口～ (相談支援センター 室長補佐:船崎初美) ②がんでも働きたい～就労相談の現場から～(相談支援センター 相談員 社会保険労務士:山下 美美子) ③支えあいがんのピアサポート (NPO法人ミーネット理事長:花井美紀) ④がんの親を持つ子供のサポートグループ (CLIMBプログラム) (緩和ケア認定看護師:深谷恭子)
2	平成26年7月19日(土) 愛知芸術文化センター	14:00 ～16:00 (受付 13:30) 終了 了不要	講演「がん患者及びその家族への支援 ～緩和ケアと患者サロンについて～」 ①がん診療における緩和ケアの位置づけ (緩和ケア部 部長:下山理史) ②患者さんご家族の力を引き出すがん患者サロン (緩和ケア認定看護師:深谷恭子) ③患者さんご家族も、ともに大切に緩和ケア (緩和ケア部 部長:下山理史)
3	平成26年7月29日(火) がんセンター研究所	9:00 ～17:00 終了 了不要 事前申込 定員16名	高校生向け 基礎実験体験講座 2014 Summer Seminar 「がん細胞はくっついて増える!～細胞装着装置を観察しよう～」 がん細胞が増殖する際に必要な“足場”である細胞装着装置を免疫染色法を用いて染色し蛍光顕微鏡で観察する
4	平成26年9月6日(土) 国際医学交流センター	13:30 ～16:10 (開場 13:00)	がんセンター開設50周年記念特別企画 講演「肺がん診療の現在と未来:肺がんサバイバー“いのちの落語”」 第1部 肺がん治療の最前線 ①禁煙だけではなく、肺がんの予防の話 (疫学・予防部 部長:田中英夫) ②ここまで進んだ肺がんの診断と内科治療 (呼吸器内科 部長:樋田豊明) ③肺がん外科治療の最前線 (呼吸器外科 部長:坂尾幸則) 第2部 肺がんサバイバー 講演と落語 『いのちの落語～笑いは最高の抗がん剤～』 (いのちの落語家・作家:樋口強氏)
	・研究所紹介	11:00 ～16:30 (受付 11:00)	・パネル展示 (11:00～16:30) ・研究所見学ツアー 第1チーム (12名) 11:30～12:00 第2チーム (12名) 11:45～12:15 第3チーム (12名) 12:00～12:30
5	平成26年11月9日(日) 愛知芸術文化センター	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	講演「がんの個別化治療」 乳がん、肺がん及び大腸がんの今日における治療戦略について ①ここまで進んだ乳がんの個別化治療 (乳腺科 部長:岩田広治) ②個別化がすすむ肺がんの最新治療 (呼吸器内科 部長:吉田達哉) ③大腸がんにおける薬物療法の最前線～標準的治療と個別化治療～ (薬物療法 部長:室 圭)
6	平成27年2月22日(日) ウインクあいち (愛知県産業労働センター)	14:00 ～16:00 (開場 13:30)	講演「泌尿器科のがん治療(前立腺がんに対する治療戦略を中心に)について」 ①前立腺がんの疫学と予防 (疫学・予防部 主任研究員:尾瀬 功) ②前立腺がんの診断と治療～外科治療と内分泌治療～ (泌尿器科 部長:林 宣男) ③前立腺がんの放射線治療 (放射線治療部 部長:立花弘之)

- ◇**場所**
- 第1・2・5回 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA (名古屋市東区東桜1丁目13番2号)
 - 第3回 愛知県がんセンター研究所 北館3階セミナー室 (名古屋市千種区鹿子殿1番1号)
 - 第4回 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター メインホール (名古屋市千種区鹿子殿1番1号)
 - 第6回 ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 5階 小ホール2 (名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

◇**受講料及び受講対象** 無 料 ・ どなたでも受講できます。

◇**申込み** 不 要

- 愛知芸術文化センター 定員220名
- 中央病院 国際医学交流センター 定員350名
- ウインクあいち 定員200名

◇**その他**

- 当日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。
- この内容は、愛知県がんセンターホームページでもご覧になれます。

※愛知病院でも公開講座を実施しております。

【問い合わせ先】

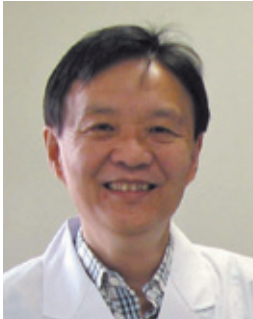
愛知県がんセンター 運用部経営戦略室 公開講座担当

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 TEL (代表) 052-762-6111 (内線2511)

FAX 052-764-2963 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

染色体の異数性とがん・老化との関連の解明

研究所 ～腫瘍医化学部～

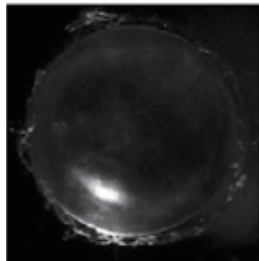


腫瘍医化学部長
稲垣 昌樹

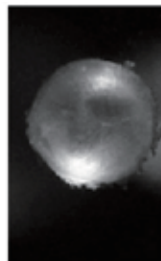
正常な細胞の染色体は、父方および母方由来のそれぞれ一本の相同染色体を対にもつ2倍体（ヒトの場合、23対46本の染色体）です。がん細胞ではしばしば染色体の異数性（一部の染色体の数が変異している状態）を認めることが、100年以上前から知られていますが、これががん化及びがんの悪性化の直接の引き金となる原因なのか、あるいは、がん化の結果なのかという問いに対する明確な答えはまだ得られていません。私たちはこれまで、細胞骨格蛋白質のひとつである中間径フィラメントのリン酸化が細胞の分裂に必須であることを明らかにしてきました。私たちは最近、中間径フィラメント蛋白質ビメンチンのリン酸化部位に変異をもつ（リン酸化がおこらない）マウスを作製することに成功しました。そのマウスは、小眼症に加えて、目の白内障や脊椎の湾曲などをきたし、早期の老化の特徴を示しました（図1）。詳細に調べると、目のレンズの細胞では、細胞分裂の障害から染色体の異数性をきたしており、さらに、細胞老化に陥っていることがわかりました。また、皮膚における損傷治癒実験でも、染色体異数性を認めた後、老化細胞の出現を観察しました（図2）。このマウスでは、がんの発生率は増えておらず、染色体の異数性は、がん化よりむしろ老化を誘導していました。現在私たちは、長い間謎であった染色体の異数性とがん化・老化との因果関係をさらに明らかにしていくため、染色体の異数性をきたす新たなモデルマウスの作製を行っています。

【図1】

正常マウス



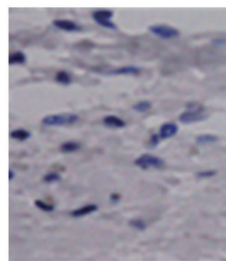
ビメンチン変異マウス



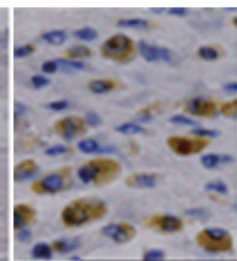
小眼症
白内障

【図2】

正常マウス



ビメンチン変異マウス



茶色に染まった細胞は老化をきたした細胞を示す

研究員の紹介

研究所 ～腫瘍病理学部～

私たち腫瘍病理学部では、高齢化社会を迎えて近年増加している難治性悪性腫瘍（消化器がん、肺がん、脳腫瘍、血液腫瘍など）を対象に、ヒトがんの細胞・組織レベルにおける分子学的特徴や転移・浸潤のしくみを、常に病態とのかかわりを視野に入れつつ基礎病理学研究を進めるとともに、ペプチドを主なツールとした「からだにやさしい」次世代がん医療創出のための技術開発研究にもチャレンジしています。このように基礎研究と応用技術研究を当部の2本の柱として、相互にその成果を取り入れながら、日進月歩のがん医学に遅れることなく新しい分野の開拓を進めていくことで、近い将来、患者さんの医療への還元を第一の目標に据えて、ラボメンバーが一致協力、日々力を合せて頑張っています。



(前列左より) 齋藤憲(研究員)、近藤英作(部長)、中田晋(主任研究員)、山下大祐(リサーチレジデント)

(後列左より) 丹羽由紀子(事務アルバイト)、伊藤由美子(嘱託解剖補助員)、伊藤秀明(リサーチレジデント)、齋藤典子(技師)、渡邊理沙代(非常勤研究技師)、飯岡英和(研修生)

広汎子宮全摘術時の卵巣温存

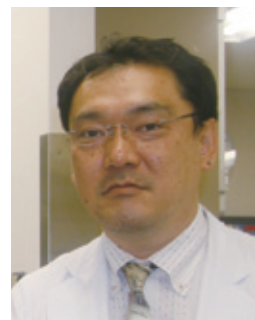
中央病院 ～婦人科部～

浸潤子宮頸がんに対する標準的な手術は、子宮と子宮附属器と呼ばれる卵管や卵巣、下腹部にある骨盤リンパ節を摘出する「広汎子宮全摘術」ですが、子宮摘出による妊孕性の喪失、卵巣摘出による更年期障害、膀胱神経損傷による排尿障害、下肢血流障害によるリンパ浮腫など、いくつかの特徴的な合併症があります。当科ではこの様な合併症を減らすべく、卵巣や膀胱神経の温存を積極的に行っております。

卵巣は子宮頸がんから非常に近くにある臓器ですが、子宮頸癌が転移する可能性は手術症例全体で2%程度であり、また組織型の腺癌やリンパ節転移陽性などの子宮外進展他、卵巣転移と深く相関する因子が確認されているので、卵巣機能が期待されかつ転移の可能性が少ない場合には卵巣は温存可能と考えられます。

当科では当院での卵巣転移の統計から、以後の卵巣機能が期待できる45歳未満で、子宮頸部扁平上皮癌の場合は臨床進行期Ⅰ期以前、腺癌の場合には腫瘍径3cm未満を適応基準としてお話ししております。さらに、温存は片側卵巣を原則にしていますが御希望により両側温存を考慮し、上記の適応基準外の場合にも御相談に応じる方針です。

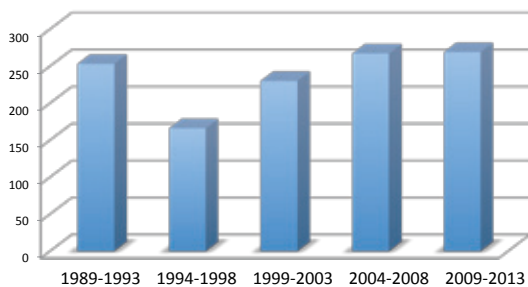
この温存により、95%以上の症例で卵巣が機能していることを確認しています。残念ながら術後放射線治療を行うと、多くの場合卵巣機能が失われてしまうため、この予防のために卵巣の位置を上腹部に移動させるなどしており、今後も努力していきたいと思っています。



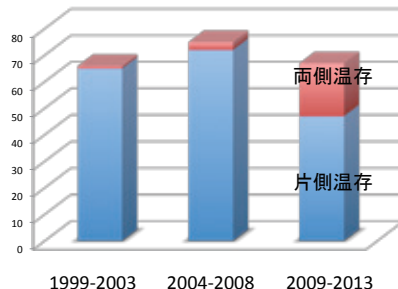
婦人科部長

中西 透

浸潤子宮頸癌に対する広汎子宮全摘術件数



広汎子宮全摘術時の卵巣温存症例数



病院部門の紹介

中央病院 ～薬剤部～ ※活動の一例

薬剤部では、初めて来院された患者さんを対象に、現在服用中の薬をお調べする「常用薬調査」を薬局窓口にて行なっています。

確認した薬の内容はカルテに記載され、当院で治療が継続し新たな薬の投与や検査が施される場合に、飲み合わせや出血リスクの把握のために使用することで、薬のより安全で有効な使用が期待できます。

「お薬手帳」を持参されますと、お薬の情報が迅速かつ正確に伝わりますので、ご協力をお願いします。



常用薬調査のメリット

- ・手術や検査の前に休止すべき薬の確認が行なわれます
- ・薬の重複投与を避けることができます
- ・薬の飲み方について、薬剤師などからアドバイスが受けられます



肋骨弓下腹横筋膜面ブロック

中央病院 ～麻酔科部～



麻酔科部長

仲田 純也

近年、手術前に抗凝固療法を受けている患者さんが増えています。脳梗塞や心筋梗塞などでは、命にかかわる事態を予防するために必要な治療ですが、手術や麻酔では、抗凝固療法による影響が無視できないことがあります。今回は腹部の手術に対する麻酔への影響と対応についてご紹介いたします。

腹部の手術では、全身麻酔の他に、硬膜外麻酔という鎮痛方法を併用することが一般的です。硬膜外麻酔は、背骨の中を通る脊髄の近くに局所麻酔薬を投与する方法です。抗凝固療法を行っている場合、出血を起こして脊髄や神経を圧迫し、障害を起こすリスクが高まります。手術前に十分な期間、抗凝固療法を中断できない場合、出血リスクが高く硬膜外麻酔が実施できないことがあります。この場合に行うことが多い手技が神経ブロックです。

神経ブロックにも幾つか方法がありますが、その一つが肋骨弓下腹横筋膜面ブロックです。図1のように痛みを感じる神経が背中から腹部に伸びています。これを輪切りにして見たのが図2です。肋骨の下から神経が伸び、図中のTAP（腹横筋膜面）という場所を通して皮膚まで伸びています。超音波装置で肋骨近くの腹横筋膜面を確認し、ここに局所麻酔薬を投与する方法を、肋骨弓下腹横筋膜面ブロックといいます。（図はReg Anesth Pain Med. 2010;35:436-41.を改変）

神経ブロックは比較的安全で効果的な方法ですが、単独では硬膜外麻酔に比べて鎮痛が弱かったり、持続時間が短いなどの欠点もあるため、他の鎮痛薬と併用することが一般的です。当科でも神経ブロックに各種鎮痛薬を組み合わせ、より良く痛みを軽減できるよう務めています。

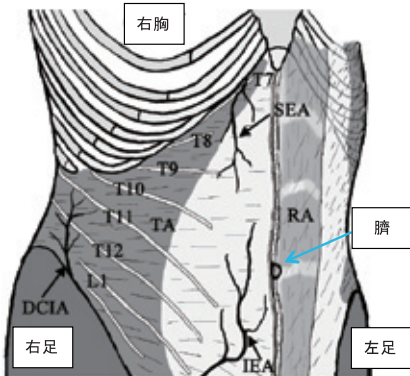


図1 腹部を走る神経（T7～L1の白線が神経）

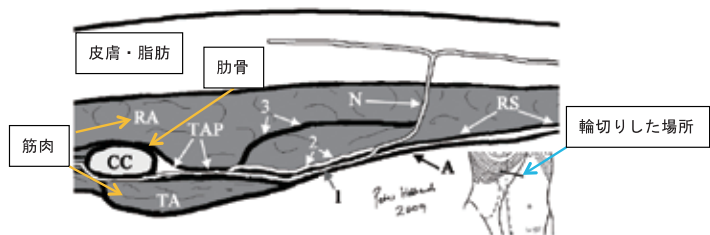


図2 腹部の輪切り（TAP～Nの白線が神経）

診療医の紹介

中央病院 ～形成外科部～

形成外科部では、手術後の生活の質(QOL)の維持や回復のために、頭頸部や乳房の再建、リンパ浮腫に対する手術などを行っています。

インプラントを用いた人工物による乳房再建は、現在保険診療にて行えるようになりました。温泉に行きたい、水泳に行きたい、いままで着ていた服を着たい等で悩んでいる、もしくは悩みそうとお考えでしたら一度再建について考えてみてはいかがでしょうか。

リンパ浮腫に対しては、保存的治療を十分行っても炎症をくり返すなど、日常生活が著しく損なわれるような場合などに手術を行っています。

再建手術を希望される場合、主治医や形成外科医より十分な説明を受けられることをお勧めします。



左より
桑田、澤本、中村、兵藤、奥村

外国公館支援協議会による視察会

3月7日に外国公館支援協議会の主催で、約30名の外国公館関係者による研究所の視察会が行われました。在名古屋米国領事館や在名古屋中華人民共和国総領事館をはじめ、10ヶ国の国々の領事の方や関係者の方が当研究所をご訪問になりました。北館セミナー室で説明の後、腫瘍病理学部と分子病態学部の実験風景を見学され、実験機器や解析データについて熱心に質問をされていました。最後に外来化学療法センターを見学されましたが、当センターのがん研究レベルの高さに本当に強い印象を受けたとの感想を頂きました。



医療連携のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分
電話	052-764-9892 (直通)
F A X	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科に対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索